

登録文化財とは……。

建築後50年を経過した住宅や蔵のほか、煙突・橋など幅広い建造物について保存及び活用を進めるため、平成8年に文化財保護法の改正によって登録文化財制度が成立しました。この制度により国の文化財登録原簿に登録されたものが、国の登録有形文化財。いわゆる「登録文化財」です。指定文化財と異なり、緩やかな規制で文化財を自由に活用できることが特徴です。



1 谷口家住宅

・店舗・北袖蔵・南袖蔵・門
・主屋・離れ・石蔵
〔江戸末期～大正期〕
真壁の近代化を支えた谷口製糸所と経営者住居の建物群。筑波山を背景に土蔵や門が連続する景観は真壁でも特に美しい。



2 大森家住宅

・主屋・長屋門〔大正初期〕
・石蔵〔大正6年〕
製糸業の創業で建築された主屋につなぎ、小部屋を付けた変則の長屋門が特徴。石蔵は火災を受けて土蔵を改造したもの。



3 谷口義衛家住宅

・長屋門及び主屋〔明治初期〕
・土蔵〔江戸末期〕
長屋門は明治中期に移築した際、土間を手に張り出し、奥に帳場を設けて店舗とし、住居部分も増築した、特徴的な外観である。



4 増淵有市家住宅

・表門〔昭和初期〕
・土蔵〔昭和初期〕
大工棟梁として数多くの伝統建築を手掛けた家。表門は、棟門・薬師門・腕木門を折衷した独特のつくりが特徴がある。



5 橋本旅館

・主屋〔昭和4年〕
・土蔵〔明治期〕
幕末に旅館を開業、明治・大正期の建物も現在の意匠とよく似ている。震災後に居間・応接室を改装し、カフェを併設した。



6 桜井家住宅

・店舗・主屋・西蔵・新蔵
〔明治初期～大正時代〕
平屋店舗に2階を増築し、西蔵は土蔵造りで火災に備える。西蔵と新蔵はともに2階建の土蔵で、外壁を下見板張で覆っている。



7 佐藤家住宅

・表門〔明治初期〕
真壁に多い典型的な薬師門。親柱と梁には、節隠しとして埋木細工が施されており、松竹梅の図案が用いられている。



8 増淵家住宅

・店舗・主屋・長屋門
〔明治6年〕
店舗の脇に門扉を付け、小部屋をつないで出桁造の屋根を掛けた変形の長屋門は、梁の節隠しに水鳥の埋木細工が施されている。



9 中村家住宅

・主屋〔明治初期〕
・文庫蔵・薬師門及び塀
〔明治期〕
木綿取引で江戸時代の真壁を牽引した中村家の建物群で、塀と薬師門に囲まれた敷地には式台を設けた座敷や重厚な土蔵が残る。



10 関根家住宅

・店舗〔明治8年〕
・主屋〔明治8年〕
通り沿いに2階建ての店舗、奥に平屋の住居をつなげた明治初期の典型的な関東の町屋。奥に作業場を設けた下駄屋であった。



11 中村家住宅

・見世蔵〔大正2年〕
・主屋〔大正2年〕
見世蔵の奥に4室の住居が続き、帳場や座敷境には差鴨居が用いられている。真壁の本格的な見世蔵としては最も新しい建物である。



12 西岡家住宅

・店舗・主屋・土蔵
〔明治中期〕
通りから少し奥に入って門柱を設ける。酒造蔵として建設され、明治後期からは味噌、醤油の醸造と西岡本店の酒販に使われた。



13 旧榊穂小学校校舎

・旧榊穂小学校校舎
〔明治中期〕
昭和20年代に廃止された校舎を現在地に移築、和洋裁学院、現在は仏像の修理工房として利用。鬼瓦に「學」の字を刻む。



14 出川家住宅

・主屋〔昭和12年〕
・石蔵〔昭和12年〕
2階建て店舗の奥に住居。真壁の町屋には珍しく、下屋庇を持たず出桁造の小庇を設ける。石蔵は地元の御影石で造られる。



15 鈴木醸造

・主屋〔嘉永7年(1854)〕
・長屋門〔明治初期〕
入母屋造の玄関を張り出した主屋に、出桁造の目立つ長屋門が、上層農家の格式を伝える。醤油醸造業は大正14年に開始された。



16 谷田部家住宅

・長屋門〔江戸末期〕
真壁に現存する長屋門で最も本格的かつ古式を伝える。一間おきに小さな武者窓を開き、正面左は座敷、右は板敷の物置である。



17 鈴木家住宅

・表門〔明治後期〕
真壁に数多く残る薬師門の典型。前面のみ軒を出桁造とし、軒天井を貼り、両脇に袖塀を伸ばして、右側には小さな潜り戸を設ける。



18 猪瀬家住宅

・薬師門〔明治初期〕
真壁で最も大きな薬師門。装飾は少ないながら、虹梁や木鼻の線型や絵様、棟束両側の発型などに精巧な彫刻が施されている。



19 塚本家住宅

・見世蔵〔大正中期〕
・住居〔大正13年〕
・土蔵〔明治41〕・門〔明治40〕
昭和初期まで営業した酒造蔵と店舗など一連の建物群で、主屋は土蔵造に鉢巻、腰を石組にした防火建築。門は裏門を移築したもの。



20 根本医院

・門〔高麗門〕
〔文政11年(1828)〕
歴代の医者の家。門は天保の大火よりも古く、真壁の町並みで最古。解体修理時に、言い伝えどおり文政年間の墨書が確認された。



21 土生都家住宅

・主屋〔昭和初期〕
・門〔高麗門〕〔明治時代〕
伝統的な和風住宅でありながら、2階の軒裏は洋風を意識した水平の板張りが入る。高麗門は本家にあたる根本医院の門と対を成す。



22 村井醸造

・店舗・脇蔵〔明治時代〕
・石蔵〔大正期〕
・煙突〔昭和初期〕
北関東に最も早く江戸中期に進出した近江商人による酒蔵の建物群。通りの北側の石蔵は大谷石で、小屋組みはキングポストラス。



23 伊勢屋旅館

・主屋〔明治中期〕
・土蔵〔明治中期〕
真壁でも最も名の知られた料亭「勢州楼」から、現在の旅館業へと転換。西側の外壁のみ土蔵造とし、防火に配慮している。



24 高久家住宅

・店舗〔明治時代〕
塗屋造の店舗兼住宅で、肥料商を営んだ。東日本大震災後に全面的な復原修理を行い、当初に近い形で公開されている。



26 潮田家住宅

・見世蔵・袖蔵〔明治末期〕
・脇蔵〔明治時代〕
・別荘〔離れ〕〔明治初期〕
呉服太物商の建物群。正面入口は真壁で最も広い8間の全面開放で、長大な1本の梁材に圧倒される。袖蔵の入口は主屋に開く。



27 密弘寺不動堂

・不動堂〔天保11年(1840)〕
大火後に再建された不動堂で、向拝や軒廻りに豊富な彫刻が施され、各面の龕彫には方角に因んだ十二支が透かし彫りにされている。



28 塚本茶舗

・脇蔵〔明治中期〕
呉服商の文庫蔵として建設されたもの。南側には観音開きの防火扉と土庇、通り側2階にも土蔵造りの防火戸を付けた本格的な土蔵。



29 木村家住宅

・見世蔵・主屋〔江戸末期〕
・門〔江戸末期〕
正面の見世蔵に、総2階の土蔵造の住居が接続する。関東大震災後、下屋庇が改修されているが、揚げ戸を備えた江戸時代の見世蔵。



30 入江家住宅

・主屋〔大正15年〕
住居として建設されたもので、軒が高く、むくりのある小庇や、軒反りを持つ屋根、左右で異なる墨木の意匠など、特徴が多い。



31 旧真壁郵便局

・旧真壁郵便局〔昭和2年〕
五十銀行真壁支店として建設。戦後は中央吹き抜け部に床を張り真壁郵便局として使用。木造にモルタル洗い出しで洋風に仕上げた。



32 川島書店

・見世蔵〔江戸末期〕
生薬商の店舗として建設されたと伝える見世蔵で、かつて住居に接続していた奥の出入口には漆喰塗りの防火引戸が残されている。



33 川島洋品店

・土蔵〔江戸末期〕
軒の形式が、一般の土蔵のような鉢巻を持たず、北の妻側は母屋を現し、東の平側には垂木にあわせて波型に塗り籠めているのが特徴。



34 山中家住宅

・長屋門〔明治初期〕
・土蔵〔明治初期〕
長屋門は出桁造で、正面左右には小さな武者窓が開く。土蔵は戸口周りと腰のみ黒漆喰仕上げで、鉢巻は付けず垂木を漆喰で包む。



35 三輪家住宅

・見世蔵〔大正初期〕
・主屋〔大正初期〕
見世蔵の奥に主屋が接続する。1階の軒は木部を出すが、2階は出桁造に軒蛇腹、箱棟と影盛、と江戸東京の見世蔵を踏襲。



36 星野家住宅

・店舗及び主屋〔明治中期〕
少し低い2階を付けた、つし2階建ての店舗の奥に平屋の主屋が接続する。乾物商「諸川屋」の屋号がショーケースの台座に見える。



37 村上家住宅

・主屋・土蔵〔明治35年頃〕
・離れ〔昭和初期〕
・表門〔明治初期〕
材木商の建物群で、平屋に下屋庇を設けた店舗の奥に住居と離れが接続する。表門の形式は薬師門で、近隣の商家から移築したもの。



38 市塚紀夫家住宅

・店舗及び主屋〔明治初期〕
寄棟平屋の店舗に、住居をL字型に接続させている。正面左側はかつての養蚕所であり、煙出しの小屋根は当時の名残である。



39 平井家住宅

・店舗及び主屋〔明治中期〕
・土蔵〔明治26年(1893)〕
米穀商の建物群で、店舗2階は戸袋を残し全面に出格子を設ける。昭和には精肉店と伝え、重厚な海鼠壁など最も優れた造りの土蔵。



40 土谷家住宅

・土蔵〔江戸末期〕
軒は鉢巻とせす母屋や垂木を出して黒漆喰で仕上げた。台風後の「お助け蔵」と伝え、重厚な海鼠壁など最も優れた造りの土蔵。



41 小林商店

・店舗〔昭和3年〕
・米蔵〔明治中期〕
平屋の店舗の奥に住居をつなぎ、寄棟の屋根で一体化させる。対して米蔵は間仕切り壁を設けるなど、機能の差がよく表れている。



42 細谷家住宅

・主屋〔明治後期〕
・長屋門〔明治初期〕
主屋は農家の造りを留めながらも、土間を設けず、材質や細部の意匠に優れている。長屋門は真壁でも大規模で本格的である。



43 市塚章一家住宅

・長屋門〔明治32年〕
真壁に残る長屋門の中でも海鼠壁を用いた唯一のもので、線形や舟肘木、金物の装飾など、細部まで意匠が凝らされている。



44 市塚政一家住宅

・長屋門〔明治初期〕
大型の長屋門で、軒の出桁は、門扉部分では三重となっている。正面左は穀物蔵で、軒先に俵が吊されるのは米検査所の遺構を示す。



45 市塚昌家住宅

・表門〔江戸末期〕
薬師門で、軒を出桁造とし、扉を兆番で吊らず、冠木に取り付けた軸受け(鶯座)を用いるのが特徴で、真壁ではあまり例がない。



46 北岡家住宅

・店舗及び主屋〔昭和6年〕
穀物・肥料商の町屋で、北面以外はほぼ全面開放となる。トタン張りの戸袋を含め、内外装や建具まで当初の状態を残す。



47 西岡本店

・店舗・脇蔵〔明治初期〕
・米蔵〔明治末期〕
酒蔵の建物群で、店舗は現在も事務所として使用。直交する脇蔵(白米蔵)と米蔵(玄米蔵)は、展示場として活用している。



48 小田部鑄造

・主屋〔江戸末期〕
・北土蔵・南土蔵〔明治前期〕
・門〔明治後期〕
梵鐘も製造する鑄物師の建物群。主屋は農家型の造りで、広い土間を配置する。南土蔵は真壁では類例のない置き屋根の形式を持つ。



49 安達家住宅

・見世蔵及び主屋・座敷・門〔江戸末期〕
江戸期の本格的な見世蔵で住居まで一体的な土蔵造とする。門は通り面のみ本瓦葺きで、座敷は式台玄関を持つ書院造と格式が高い。

